

安全・安心を届けるために

副市長 片田 悟

実感できるインフラ整備を

みなさんこんにちは。副市長の片田です。

私は津市で生まれ育ち、令和4年4月に副市長に就任するまでは、三重県の土木技術職員として30数年間、県内各地の建設事務所で道路、河川、港湾などのインフラ整備や維持管理、県庁では都市計画や入札契約に関する制度づくりなどに携わってきました。

現在担当するのは、専門である土木関係をはじめ、環境、農林水産、スポーツ文化振興などの分野です。津市では、長年の懸案であった津駅北側の大谷踏切の拡幅や老朽化した津興橋の架け替え、雨水排水対策としての下水道整備など、大規模なインフラ整備に取り組んでいます。また未来に向け、新たな道路計画や、津駅周辺、大門・丸之内地区でのまちづくりの議論も進んでいます。

しかしこの一年余り、市のインフラ整備に関わる中で、市民の皆さんに安全・安心な暮らしを届けるために行っている事業の内容や進捗状況が皆さんにきちんと伝わっていないと感じることが度々ありました。造って終わりではなく、皆さんに使ってもらって、「便利になったな」「安全になってよかったな」と実感していただくのが真の目的です。市民の皆さんにインフラをもっと知っていただき、それにより事業を進めている職員のモチベーション向上にもつながればと思います。

環境保全との両立を目指して

環境分野では、昨年8月、津市は2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロを目指した地域脱



炭素宣言を行いました。カーボンニュートラルの実現に向け、ペットボトルの水平リサイクルや羽毛製品の再資源化など、市と共に行動していただく民間企業などと、見える形で取り組みを進めています。

一方、脱炭素社会の実現のために効果の大きい再生可能エネルギー施設の建設を巡っては、全国各地で斜面崩壊や盛土からの土砂流出の懸念、景観への影響による地域とのトラブルなどが顕在化してきました。インフラ整備と環境保全の両方を担当する立場として、利便性や防災機能の向上と環境保全を両立させるため、木材など自然素材の活用や生態系に配慮した工法の採用といった、グリーンインフラの考え方を広げていくべきだと思います。

そのためには、各分野で仕事をする市の職員一人一人が自分事としてアイデアを出し、各部署が横断的に連携することが大切で、私自身も広い視野を持って一緒に考えていきたいと思っています。

今まで育ててもらった津市に恩返しする機会を与えてもらったことに感謝し、津市がさらに住みよいまちになるよう取り組んでまいります。

片田悟副市長 プロフィール

昭和42年生まれ。三重大学農学部卒業。平成2年4月三重県に採用。県土整備部や県建設事務所などで主に土木関係の業務に従事。津建設事務所事業推進室課長、尾鷲建設事務所事業推進室長、県土整備部建設企画監、鈴鹿建設事務所長などを歴任。令和4年4月から副市長に就任。